HANDYCAM

結婚式を撮ろう！

結婚式は挙式と披露宴の2つに大別できます。挙式は教会、神前、仏前などの形式に関わらず、ほとんどの場合撮影できる場所が決められているので、それに従って厳粛な雰囲気を壊さないように配慮して撮影します。ここでは一般的な披露宴のプログラムに沿った撮影ポイントをご紹介しましょう。

チェックリスト

準備するもの

□ ビデオカメラ	取扱説明書をよく読んで、操作方法を確認しておきましょう。
□ ビデオテープ	3〜4時間分程度を用意しましょう。
□ バッテリー	撮影時間の2倍を目安に用意します。

あると便利なもの

□ クロスフィルター	キャンドルサービスなどが美しく撮影できます。
□ 三脚	長時間の撮影でも安定した撮影ができます。
□ ビデオライト	花嫁の衣裳がより美しく撮影できます。

1 披露宴・会場紹介！

結婚式、披露宴のビデオでは、いつ、どんなところでおこなわれたのかが大切なポイントとなります。
そこでまず披露宴が始まる前に、会場の紹介カットを撮影しておきましょう。

会場の雰囲気

会場のある建物の外観や、案内ボードに記入されている両家の名前などを撮影します。
さらに披露宴会場までいく途中、特長あるインテリアを撮影しておくと、会場の雰囲気がわかります。
また、受付のなごやかな風景も忘れずに撮っておきましょう。

会場入り口で

披露宴会場の前では新郎新婦、ご媒酌人、両家のご両親が迎えてくれます。カメラを持ってみなさんに挨拶を述べながら歩いて撮影すると、自然な感じの良いシーンが撮れます。

司会者に披露宴の進行表を見せてもらったりメモしておけば、次の撮影準備ができて便利です。

2 新郎新婦入場！

緊張感のただよう会場に、新郎新婦が入場。高砂の席に着くまでを撮影します！

新郎新婦の入場

新郎新婦の入場は、ドアが開くところから撮影するとドラマチックです。入場してから高砂まで歩くコースを、事前に会場の係りにたずね、確認しておくと動きが予測でき安心して撮影できますよ。

スポットライトなどが使われる場合は、その光をうまく利用して撮影すると、とてもきれいな映像が撮影できます。

新郎新婦が高砂に到着したら、ツーショットからズームバックし、媒酌人のお二人を入れた4人のサイズにしましょう。

3 媒酌人挨拶・来賓祝辞

媒酌人、新郎新婦が着席したら高砂の正面に移動して、各人の上半身をメインに撮影します。媒酌人の話を聞きながら、その内容にあわせてゆっくりと新郎や新婦にカメラを向けると良いでしょう。

媒酌人挨拶

挨拶が始まったらズームアップしてご媒酌人をとらえ…

話に合わせて、新郎や新婦、媒酌人ご婦人のほうへパンしていきます。そして再び全員が入るサイズにもどすと良いでしょう。

来賓の祝辞

この後の来賓祝辞では、司会者の「新郎の○○にあたる△△様からご祝辞を賜ります・・・」などのコメントから収録すれば、みなさんにどなたかが分かるので喜ばれます。

4 ケーキ入刀と乾杯！

カメラ付き携帯電話で撮られる方も増え、ポジション争いも大変ですが、ケーキ入刀ではぜひ二人の手元が撮れる場所を確保しましょう。

ケーキ入刀

最初は、思い切って手元のアップから撮影します。

入刀が行われたらゆっくりとズームバックし、新郎新婦の幸せそうなツーショットとケーキが入るサイズにします。

乾杯

乾杯は通常、1．乾杯の音頭、2．全員で乾杯、3．拍手/着席、といった順に行われます。まずカメラポジションをなるべく会場の中央にとりましょう。

1．で音頭をとる方をバストサイズで撮影

2．でワイドにしながら会場をぐるりとパンして、みなさんの乾杯や拍手のシーンを撮り…

3．最後に新郎新婦の笑顔が撮れると良いでしょう。

5 友人挨拶や馴れ初め紹介映像

祝辞を述べる人や、そのエピソードに感慨深げにうなずいたり、微笑んだりしている新郎新婦の表情を撮りましょう。 二人の馴れ初めを紹介した映像が上映されれば、それも撮影してみましょう。

友人の挨拶

祝辞を述べる友人の話の内容には、緊張気味の新郎新婦の表情にも変化が見られるはず。ぜひそちらにもカメラを向けて撮っておくと面白く楽しい映像になります。

生い立ち紹介のスライドや馴れ初め紹介ビデオが上映される時は、スクリーンに対して斜めからではなく、なるべく正面から撮影するときれいで見やすい映像が撮影できます。

6 お色直しで再入場！

新郎新婦はスポットライトを受け、もっとも華やかなシーンが撮影できます。カメラマンもここが腕の見せ所になります。

再入場

可能なら撮影しながら移動して、常に2人がきれいに照らされている角度から撮るように心がけます。

会場の照明がうまく利用できると、とても感動的な映像が撮影できます。鳴り止まない拍手やBGMも重要なので、途中で録画を止めずに、最後まで撮影しましょう。

スポットライトやキャンドルなどの強い光源がある場合には、クロスフィルターを使うと、キャンドルの炎や新婦の髪飾りなどが綺麗に輝いて、とても美しいシーンになります。

7 歓談タイム！

各テーブルを回って、出席者を撮影しておくのも大切です。出された料理なども撮っておくと、よい思い出になります。

歓談

1人あたり、10秒程度ずつ撮影します。友だちの席などは3～4人ぐらいのグループショットで撮るのも楽しいですね。お料理などは、どなたかに、グルメ番組風にレポートしてもらうのも面白いでしょう。

8 花束贈呈・謝辞！

いよいよ披露宴のクライマックスです。
新郎新婦、両家のご両親のその時をしっかりと映像に残しておきましょう。

花束贈呈

花束贈呈では、歩き始めた新郎新婦をゆっくりとパンで追います。ご両親の前に着くころに全員が映るサイズにし、花束贈呈シーンを撮ります。

謝辞

ご両親からの謝辞はアップで、新郎からご両親、新婦までをゆっくりとパンしながら撮影し…

最後にズームバックで全員の一礼を納めるときれいにまとまります。

9 お見送り

感激の涙を拭いながらも微笑む花嫁や、緊張から開放された安堵の新郎など、先程までとはまた違った二人の表情が撮影できます。

新郎新婦、ご媒酌人、両家のご両親のお見送りのシーンが取れたら、披露宴はこれで終了。

その後、披露宴に出席された方々に感想や新郎新婦へ向けての一言メッセージなども撮影しておくと、ステキな記念になります。

結婚式は新郎新婦にとって一生に一度の大切な思い出です。カメラマンは取り逃しのないように、事前に進行や機材を確認しておくとよいですね。